

比較家族史学会

会報 比較家族史 49

事務局 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7 弘文堂気付

郵便振替(会費)00130-4-25222 (年報バックナンバー・その他)00180-3-604964

比較家族史学会二〇〇七年度秋季研究大会

日時 二〇〇七年一〇月二七日(土)  
場所 専修大学(神田校舎二号館 二〇四教室)  
〒101-1842 東京都千代田区神田神保町三十八

参加費 一〇〇〇円 (別掲地図参照)

■プログラム

○会長挨拶 一〇時四五分 岩本由輝(東北学院大学)

(報告1) 一一時〇〇分～一二時〇〇分

司会者 未定

堀内ミキ子(城西国際大学大学院・女性学・比較ジェンター論)  
「冥王まさ子と高度経済成長—ラディカル・フェミニズムの視点で解説する」

【概要】「冥王まさ子」の作品を批評する場合、「高度経済成長」期を視野に入れて、解説することが重要である。「性別役割分業観」(男は仕事、女は家事育児)は、「高度経済成長」期に醸成されたもので、「妻として、母として、一人の自立した女性として生きた」作者の実人生が昇華された作品は、当時の風潮に逆らうものであった。「新しい女」を描いた「冥王まさ子」の作品は、現代の社会では、どのように評価すればよいのか。

○昼休み

(報告2) 一三時〇〇分～一四時〇〇分

司会 孝本貞(明治大学)

今井昭彦(埼玉県立川本高校・宗教史)

「慰霊と忠魂塔建立をめぐる諸問題—靖国神社によせて」

【概要】忠魂碑・忠魂塔は、一般に「ムラやマチの靖国」といわれているが、とりわけ忠魂塔についての研究は、近年、進展を見せている。忠魂碑は、戦死者の魂のみをカミとして祀った靖国神社の体系に繋がるとしても、忠魂塔は「墓」とされ、納骨が前提とされている。戦死者をホトケとして祀ることに、国家祭祀の体系から外れることになる。忠魂塔とはいかなる慰霊施設であったのか、現今の問題も視野に入れながら報告した。

(報告3) 一四時〇〇分～一五時〇〇分

司会者 未定

坂田博美(富山大学・小売商業論)

「零細小売商における夫婦のパートナリシップ—商人家族は近代家族か」

【概要】兵庫県伊丹市において一九九七年八月から二〇〇五年八月までフィールドワークを行い、四つの商人家族の事例を取り上げた拙著「商人家族のエスノグラフィ—」の研究成果を紹介したい。とくに小売業家族従業員について、次の三つの研究成果を中心に報告する。(1)小売店は顧客や地域住民によって支えられている。(2)顧客にとって、商人家族はそれぞれ独立した個人として位置づけられる。(3)夫婦のパートナリシップは対等性が求められる。最後に、商人家族が地域や顧客によって支えられる全体構造を提示する。

(報告4)

一五時〇〇分～一六時〇〇分

司会者 未定

渡邊暁子(京都大学大学院アジア・アフリ

カ地域研究研究科・文化人類学)

「婚姻からみるフィリピンのムスリム社会の変容―マニラのムスリム・コミュニティを事例として―」

【概要】フィリピンのムスリムは歴史的に島嶼国南部のミンダナオ島およびスールー諸島に居住してきた。一九六〇年代後半以降、これらの地域での紛争によってムスリム人口は拡散し、北部ルソン島に位置するマニラ首都圏に多くのムスリム・コミュニティが形成された。一二万人におよぶムスリム人口は、マニラで見知らぬ人たちと近隣関係を結ぶようになった。本報告は、フィリピンの政治経済的変動を背景にマニラ首都圏におけるムスリム社会の変容を、婚姻をとおして探っていく。

(報告5)

一六時〇〇分～一七時〇〇分

司会 孝本貢(明治大学)

姜恩和(国立精神・神経センター精神保健

研究所、家族制度・児童福祉制度)

「「養児」の扱われ方の変遷についての考察―戦後の家庭的養護形態の展開を理解する手がかりとして―」

【概要】日本の児童福祉における要保護形態

は、施設保護が九割を占めているのに対し、家庭的養護は一割ほどにとどまっている。家庭的な保護形態がなぜ低調なのかについて様々な角度から分析がなされてきたが、本研究では、戦前の児童福祉行政において着目されていた「養児」というカテゴリーが、戦後の家庭的養護形態の展開を理解する手がかりとして有効であると考え、戦前の「養児」の扱われ方について分析することを目的とする。

### ■研究大会・事務局から

一 今回はミニシンポの申し出がなかったもので、自由報告だけになりました。自由報告についても、その内容を充実するために、その概要をあらかじめ提出していただき、その概要をプログラムにも掲載することにしました。あらかじめ概要を明らかにすることによって会員の関心を喚起するためです。

二 報告者の選任によってご本人のご研究の良き理解者に司会者をお願いできるように配慮しました。充実した討論ができるように配慮いたしました(必ず司会者をご本人がお願いするという趣旨ではありません)。今回は時間が司会者の依頼するために期間が短かったので、司会者の名前を掲載できていませんが、開催時

までに決まっているように配慮したいと思えます。

三 時間を各報告に付き一時間とついでいますが、報告四〇分(実質報告時間三五分)、討論二〇分でお願ひしています。討論時間が必要でない場合には四〇分で終了し、休憩時間にしたと思います。各報告の持ち時間が一時間という趣旨ではありません。これについて、報告者も司会者もご了解いただければと存じます。この時間は厳守していただくよう、特に司会者の方にはご配慮をお願いします。

四 今回はお弁当は準備いたしません。昼食は、近くの食堂もしくはコンビニをご利用下さい。

### ■事務局からの連絡

一 会費納入のお願いと連絡  
年会費は、個人会員は三〇〇〇円です。今回は会費未納分のある方に振込用紙を同封しております。住所ラベルの右下の既納年度(二〇〇七年九月二十六日現在)が更新してありますが、同日以降の振込み、および行き違いの節はご宥恕ください。また、学校法人名で振り込まれるときは、必ず通信欄に会員氏名をお書きください。

※なお、今年度は役員改選の年にも当りた

これまでもたびたびお願い申し上げましたが、現下の出版状況から、今後も出版を継続していくため、特に会員および会員の所属各大学図書館での学会関連書籍購入方につき、特段のご協力をお願いします。

『シリーズ比較家族』は早稲田大学出版部、『事典家族』は弘文堂、『家族―世紀を超えて』は日本経済評論社にご注文ください。ほかの書籍を含めて二割引で購入できます。なお、その際には、必ず比較家族史学会の会員であることをお申し出ください。

早稲田大学出版部(担当 新井)

電話 03-3203-1155

FAX 03-3207-0406

弘文堂(担当 浦辻)

電話 03-3294-7003

FAX 03-3294-7034

日本経済評論社(担当 谷口)

電話 03-3230-1661

FAX 03-3265-2993

三 『比較家族史研究』バックナンバーについて

『比較家族史研究』の既刊分の総目次は

なお、創刊号から四号までは在庫がありません。購入希望の方は、学会事務局へご連絡ください。

※また、今回は期間限定で、『在庫処分格安セット販売』を実施します。詳細は、同封の別紙をご覧ください。

四 事務局連絡先

〒九八〇-八五二 宮城県仙台市青葉区

土樋一丁目三一 東北学院大学文学部

政岡伸洋研究室気付 比較家族史学会

電話 022-721-3359

(FAX兼用)

E-mail

■理事会議事録

日時 二〇〇七年六月十五日(金)

一八時三〇分

場所 神戸大学大学院人文学研究科

会議室

出席者数 三三名(委任状を含む)

議題

一 新入会員および退会会員の承認について(敬称略)

大黒恵理・佐々佳子・山田直子・首藤明

和・澁谷悠子の五名の入会および申し出

また、比較家族史学会規約十三条三項の適用(会費未納)により、窪田幸子・佐藤直樹・高村竜平・丹原恒則・西川麻衣子・萩原なつ子・原ひろ子・山内健治の退会も承認された。

二 比較家族史研究について

二一号の内容および二二号の進捗状況

について報告があり、了承された。

三 シリーズ比較家族について

各巻の進捗状況についての報告があった。

四 次回以降の研究大会および秋季研究大会について

二〇〇七年度秋季研究大会は一〇月

二七日に専修大学で、理事会は二八日に

実施することが了承された。

また、二〇〇八年度の研究大会は第

五〇回の節目を迎えることから、「比較

家族史学会研究大会第五〇回記念大会」として、「戦後日本の家族研究と二世紀の課題」と題するシンポジウムを中心

に、二〇〇八年六月二二日(土)・二三日

(日)、東北大学で実施することになった

であったが、その準備状況について報告が

あった。また、理事会は、六月二〇日(金)

に行われる予定であることが報告され、いずれも了承された。

五 二〇〇六年度決算および会計監査の結果について

二〇〇六年度決算および会計監査の結果について報告があり、了承された。

六 二〇〇七年度予算について

二〇〇七年度予算について報告があり、了承された。

七 次期理事選挙について

選挙管理委員長等の担当者の資格について確認された。

### ■総会議事録

一 新人・退会について

新入会員五名の紹介と一四名の退会（一二三条適用八名を含む）が報告され、了承された。

二 比較家族史研究について

二一号の紹介および二二号の進捗状況について報告があり、了承された。

三 シリーズ比較家族について

各巻の進捗状況についての報告があった。

四 次回以降の研究大会および秋季研究大会について

二〇〇七年度の秋季研究大会は一月二七日（土）に専修大学で開催される

こと、二〇〇八年度の研究大会は第五〇回の節目を迎えることから、「比較家族史学会研究大会第五〇回記念大会」として、「戦後日本の家族研究と二一世紀の課題」と題するシンポジウムを中心に、二〇〇八年六月二一日（土）・二二日（日）、東北大学で実施することになり、その準備状況について報告があった。

五 二〇〇六年度決算および会計監査の結果について報告があり、了承された。

六 二〇〇七年度予算について報告があり、了承された。

### ■新入会員

大黒恵理（神戸大学大学院総合人間科学研究

究科人間文化科学専攻大学院生、

日本近世女性史）

佐々佳子（四国学院大学助教授、家族社会学・老年学）

山田直子（早稲田大学アジア太平洋研究セン

ター助手、東南アジア近現代史）

首藤明和（兵庫教育大学准教授、地域社会学・

比較社会学・現代アジア社会論）

澁谷悠子（東北大学大学院文学研究科歴史

科学専攻大学院生、日本史・東北

近世）

### ■会員著書・受贈著書

（単行本・事務局に連絡があったもの）

坂田博美『商人家族のエスノグラフィ―

零細小売商における顧客関係と家族従

業』、関西学院大学出版会、二〇〇六年、

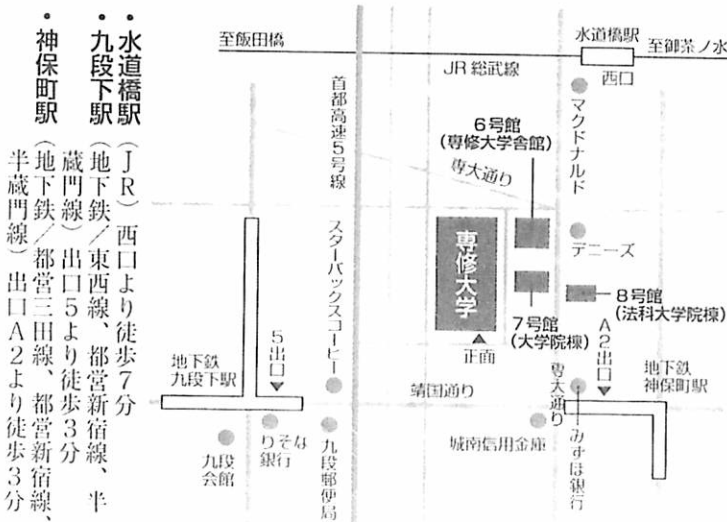
二七〇〇円（税別）。

椎野若菜『やもめぐらし―寡婦の文化人類

学』、明石書店、二〇〇七年、三二〇〇円

（税別）。

### キャンパス紹介



- ・水道橋駅 (JR) 西口より徒歩7分
- ・九段下駅 (地下鉄) 東西線、都営新宿線、半蔵門線 出口5より徒歩3分
- ・神保町駅 (地下鉄) 都営三田線、都営新宿線、半蔵門線 出口A2より徒歩3分